

市町村支援などで議論

首長も参加しピッチイベント

九州フレームンテ
国民会議

産学官民によるインフラメンテナンス国民会議九州フォーラム（フォーラムリーダー・日野伸一九州大学名誉教授）は12日、「市町村長が考えるこれからのインフラメンテナンス」をテーマとする第7回ピッチイベント

「写真」を、福岡市の福岡国際会議場で開催した。特に、予算不足、技術職員不足などの課題を抱える市町村をどのように支援していくかについて、自治体トップも交えて意見を交わした。

イベントはハイブリッド方式で開催し、多数が参加した。日野フォーラムリーダーは冒頭、「着実に活動を進められていることに感謝したい。今年4月にはインフラメンテナンス市区町村長会議が設立された。自治体トップに強いリーダーシップを発揮してもらいうことを期待している」とあいさつした。

来賓として出席した九州地方整備局の藤巻浩之局長は、「インフラメンテの課題には、膨大な予算がかかることや、自治体の技術者不足、建設業

界の担い手確保・定着への対応がある。悩みを共有し、解決策を見つけていければ」とした。

イベント第1部では、国土交通省総合政策局公共事業企画調整課の廣瀬健二郎事業総括調整官が、インフラメンテに関する取り組み状況を説明も講演した。

また、インフラメンテナンス市区町村長会議九州・沖縄ブロックの幹事を務める大西一史熊本市長も講演した。大西市長は今後のインフラメンテについて、「市区町村トップが強い課題意識を持ち、前に進めていく」ことが重要としたほか、「必要に応じては国の財政的、技術的



支援を求めているがなくてはならない」と強調。ブロック企画委員の金子健次柳川市長、小松政武雄市長も、それぞれの取り組み状況等を報告した。

イベント第2部では、地方自治体のインフラメンテの新たな展開についてパネルディスカッションを実施した。廣瀬事業総括調整官は、単独自治体で課題に取り組むのではなく、将来的には複数自治体で連携する必要があると指摘。日本大学の石城一郎工学部工学研究所長、土木工学科教授は、「劣化という緩やかに迫る危機に対しては、市民が当事者意識を持ちにくい。インフラへの関心、愛着を醸成することが課題だ」とした。

第2部後半では、今年

度発足した九州地方整備局九州道路メンテナンセンターの猪狩名人センター長が登場し、センターが実施する橋梁メンテに関する自治体支援の概要を説明。「遠慮なく相談してほしい。『かかりつけ医』として、われわれで解決できることであれば単独で回答し、難しいものは国総研、土建、学識者、九州フォーラムのテックシニアーズと連携して対応する」とした。